

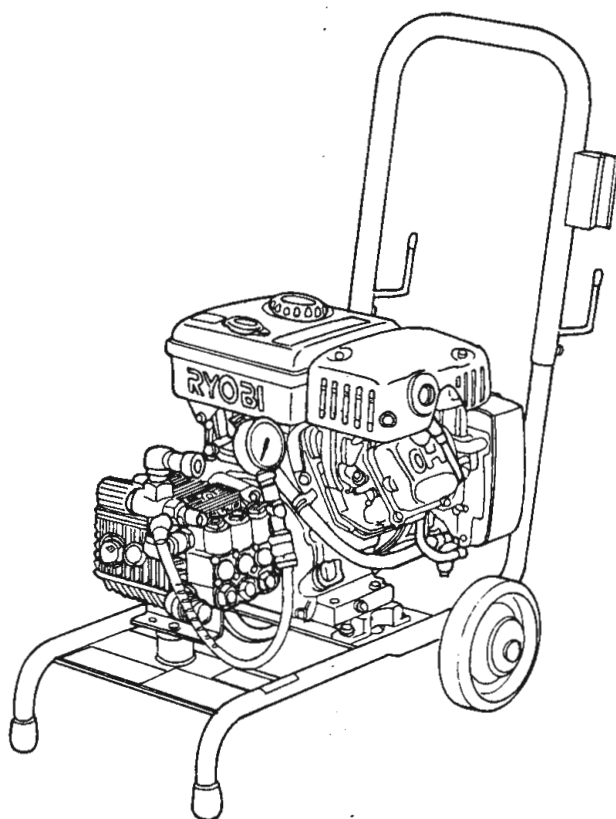
RYOBI®

エンジン高圧洗浄機

EJP-1011

取扱説明書

ご使用前に必ずこの取扱説明書を最後までお読みいただき、使用上の注意事項、本機的能力、使用方法など十分ご理解のうえ、正しく安全にご使用くださるようお願いいたします。
また、この取扱説明書は大切にお手元に保管してください。

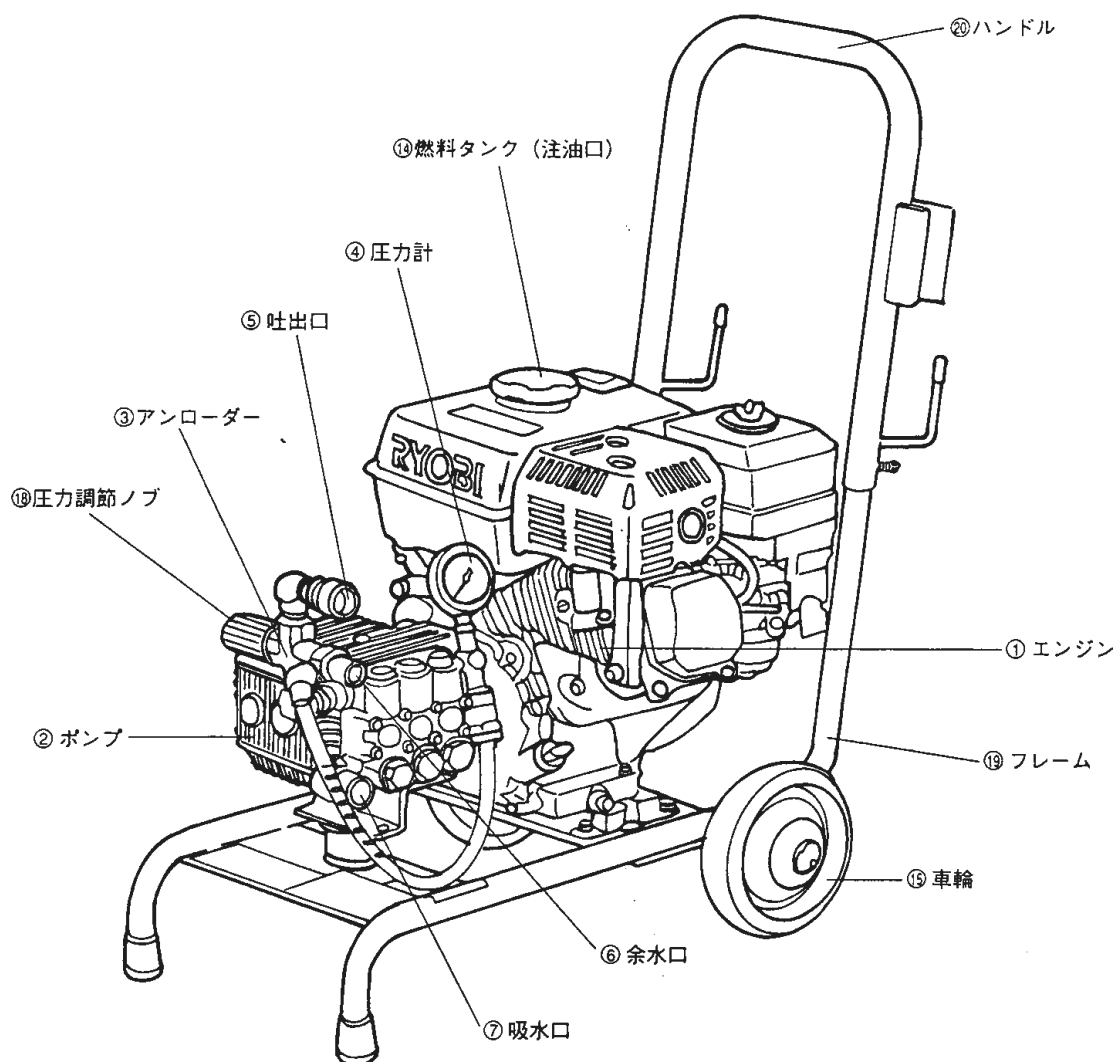


—— もくじ ——

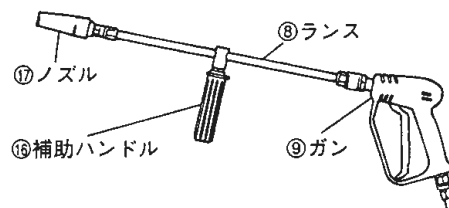
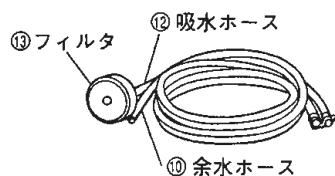
・§ 1	構成と名称	1
・§ 2	製品の仕様諸元	2
・§ 3	安全にご使用いただくために	3
・§ 4	ご使用前の点検と確認	4
・§ 5	作業手順	6
・§ 6	使用後の注意	8
・§ 7	保守点検	8
・§ 8	トラブルシューティング	9
・(巻末)製品分解図		

§1 構成と名称

当機は以下の部品で構成されています。



●付属品



- ① エンジン ホンダGX200
- ② ポンプ
- ③ アンローダー
- ④ 圧力計
- ⑤ 吐出口 SUSカブラ2TSF
- ⑥ 余水口 3/8PFM
- ⑦ 吸水口 3/4PFM

- ⑧ ランス
- ⑨ ガン P22-7
- ⑩ 余水ホース
- ⑪ 高圧ホース
- ⑫ 吸水ホース
- ⑬ フィルター
- ⑭ 燃料タンク (注入口)

- ⑮ 車輪
- ⑯ 補助ハンドル
- ⑰ ノズル
- ⑱ 圧力調節ノブ
- ⑲ フレーム
- ⑳ ハンドル

§ 2 製品の仕様諸元

■製品本体仕様・性能

製品名・・・・・・・・EJP-1011
最大吐出圧力・・・・・・・・9.8 Mpa (100 kgf/cm²)
最大吐出量・・・・・・・・10.5 L/min
使用ノズル・・・・・・・・バリアブルノズル 040 (1549B)
給水方式・・・・・・・・吸余水式 (オプションで水道直結も可能)
吐出口・・・・・・・・SUSカプラソケット2TSF
余水口・・・・・・・・3/8 PFM
吸水口・・・・・・・・3/4 PFM
動力駆動方式・・・・・・・・ホローシャフト直結方式
外観寸法・・・・・・・・660L×430W×770H (ハンドル高)
製品質量・・・・・・・・26 kg

■エンジン仕様

型式・・・・・・・・三菱 GM132P (空冷4サイクル)
排気量・・・・・・・・126 cm³ (cc)
定格出力・・・・・・・・2.1 (2.8) kw (PS) / 3600 min⁻¹
最大出力・・・・・・・・3.0 (4.0) kw (PS) / 4000 min⁻¹
オイル量・・・・・・・・0.6 L
燃料タンク容量・・・・・・・・2.5 L (無鉛ガソリン使用のこと)

■ポンプ仕様

型式・・・・・・・・WW907 (三連プランジャーポンプ)
クランク潤滑油・・・・・・・・日本石油フェアコール#68又は同等品
オイル量・・・・・・・・0.5 L
調圧方式・・・・・・・・背圧式アンローダー方式 (MV540)

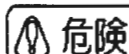
§ 3 安全にご使用いただくために

(製品の始動前に必ずお読みください。)

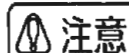
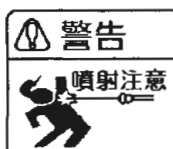
人体等への安全のために、下記の事項を厳守してください。

1. 高圧力に注意

高圧噴流は優れた洗浄能力を持つと同時に、取扱いを間違えますと非常に危険です。取扱いには十分ご注意ください。又、怪我をした場合は、直ちに医者の手当てを受けてください。



- ① ノズル（噴射口）を、絶対に人や動物にむけないでください。
- ② 噴射前や噴射中に、ノズルの前に手などを当てないでください。
- ③ 作業中は、噴射水が作業者にかからないよう十分注意してください。特に、ゴミ等が目に入らない様、保護具を必ず装着してください。
- ④ 装置から水漏れが発生した場合は、その部分には絶対に触れないでください。直ちに装置を止めて修理してください。
- ⑤ 噴射作業中は、ガン及びランスをしっかりと支持し、反発力でガンが振られないよう注意してください。
- ⑥ 高圧ホースは、破裂（バースト）の可能性がありますので、作業中ホースが体に密着しないよう注意してください。
- ⑦ 高圧ホースは、外皮が傷んでいたり折れ曲がった（キンクした）りした状態で使用しますと、破裂の危険性が高いので新しいホースに交換してください。
- ⑧ 使用後（停止後）もホース内に残圧が残っております。ガンの引き金を引いてホース内の残圧を逃がしてください。
- ⑨ 接続金具に錆、破損等がないか確認してください。



2. 引火性ガスに注意

引火性ガス、爆発性の可燃物（アセチレン、プロパン、シンナー、ガソリン、塗料）のない場所で使用してください。もし危険物のそば等で使用して事故が発生すると、人身や建造物に重大な損害を与えます。



3. 燃えやすい物は近づけない

マフラーの排気口付近は高温になります。熱に弱い物や、引火しやすい物は近づけないように注意してください。



4. 燃料系統に漏れはないか？

使用前に、燃料系統に漏れはないかどうかを点検してください。もし燃料が漏れている場合は、直ちに修理してください。安全が確認されるまでは絶対に運転してはいけません。



5. 燃料補給時の注意

燃料の補給はエンジンを停止させた状態で行ってください。燃料がこぼれた場合はきれいに拭き取ってから始動してください。また給油中はタンク内から揮発ガスが立ち昇っていますので、くわえタバコ等は厳禁です。



6. 換気に注意

エンジンの排気ガス中には人体や生物に有害な成分が含まれています。屋内、トンネル内など換気の悪い場所での使用はおやめください。やむを得ず使用する場合は、排気ガスの外部放出等、十分な換気措置を施してください。



7. 高温注意

運転中や停止直後は、エンジン部分が非常に高温になっていますので、接触等による火傷などがない様ご注意ください。さらに、マフラーに直接触れますと大きな火傷につながりますので十分に注意してください。



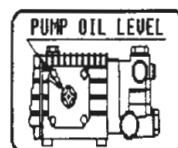
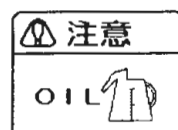
§ 4 ご使用前の点検と確認

機械を壊さないために、下記の注意事項をお守りください。(重要)

1. ポンプオイルのレベル及び汚れのチェック

オイルの入っていない状態で運転しますと、クランク部で焼き付けを起こしますので、始動前にレベルゲージでオイル量をチェック願います。不足している場合はポンプ上部の給油口よりオイルを補給してください。

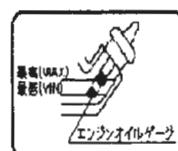
又、オイルの汚れがひどい場合はオイル交換をお願いします。なお、オイルは約500cc入ります。



2. エンジンオイルのチェック

オイルの入っていない状態で運転しますと、クランク部で焼き付けを起こしますので、始動前にレベルゲージでオイル量をチェック願います。

オイル点検不備によるエンジン焼き付けは、ユーザー責任になりますので十分ご注意ください。



3. 清水（水道水）を使用してください

気密性の高い高圧プランジャーポンプは、砂泥、金属粉等には非常に弱いポンプです。これらスラッジ分の混入した水を使用しますと、ポンプ内のバルブ、パッキン、プランジャー等を早期に傷めます。できる限り清水（水道水）を使用してください。

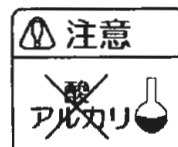
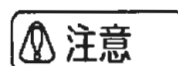
特に川水、井戸水、工業用水、農業用水等は、微細なスラッジ分が混入していることがありますので、摩耗が早い場合は、フィルター等の対策をする必要があります。

ポンプの使用液体については、次の事柄にご注意ください。

① PH4～10の範囲内で御使用ください。範囲外の酸、アルカリを使用しますと、ポンプ、ホースを損傷させます。

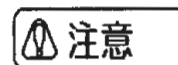
② 研磨的な作用のある液体を使用しますと、ポンプ、ホースを損傷させます。

③ 0～60℃の範囲を越える液体を使用しますと、ポンプ、ホースを損傷させます。特に高温水を使用した際、ホース等が破裂しますと爆発する可能性がありますので絶対にやめてください。



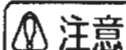
4. ポンプの空運転の禁止

ポンプに水が供給されない状態で、連続1分以上の空運転はしないでください。空運転することによりピストン・パッキン部が高熱になり、故障する恐れがありますので御注意願います。



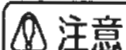
5. 使用燃料について

燃料は無鉛ガソリンに限ります。新しいものをお使いください。購入後3ヶ月を経過した古いガソリンは変質の可能性があります、使用してしまうとキャブレター内での燃料詰まりやシリンダー内でのカーボンの発生等によりエンジン不良となります。



6. 圧力は規定値又は、それ以下で使用する

使用中の噴射圧力が規定値（本品は9.8 Mpa）を超えている時は、ノズルの適合性を確認したうえ、アンローダーのノブで圧力を規定値まで下げてください。そのまま使用しますと、装置が破損する恐れがあります。



7. ポンプ内の残水の凍結の心配はないか？

ポンプ内が凍結した状態でポンプを起動しますと、氷の破片によりポンプ内部が破損しますので、凍結の心配があるときは解凍を確認してから起動してください（詳しくは§6をご覧ください）。



氷結注意



8. 純正以外の部品は、原則として使用しない

ガン、ホース、ノズル等は、必ずポンプ容量等に適合した純正部品を使用してください。万一、純正以外の部品を使用する場合は、適合性を十分に調査、確認をしてからにしてください。



純正

9. 機械の設置

下記の事柄に注意して機械を設置してください。

- ① 狭いところや、壁、塀等の近くで機械を運転しますと、熱効率が悪くなり本機を損傷させる原因となりますので、障害物がない換気のよいところで運転してください。
- ② 急な傾斜地で運転しますと、オイルが十分な潤滑をできず、ポンプを損傷させますので、平坦な安定した場所で運転してください。
- ③ 発電機、排熱ダクト等の排気側に本機を置きますと、排気熱で本機を損傷させますので、熱の影響のない涼しい場所に設置してください。

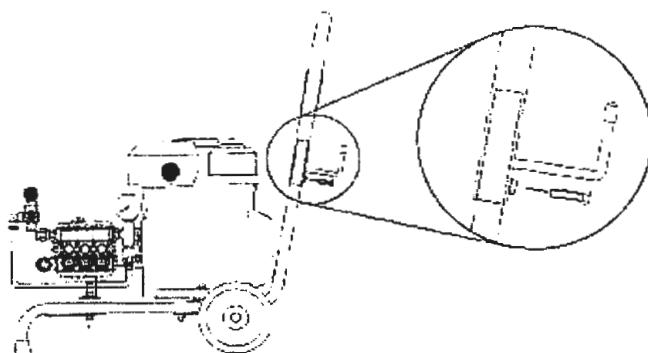


§ 5 作業手順の説明

1. ハンドルの取り付け

本機をご使用の前にハンドルを取り付けます。

ハンドルに付いているナットの穴を、本体側の穴に合わせて、付属のボルトにて固定してください。複数穴の場合はお好みの高さに合わせてください。



2. 運転準備

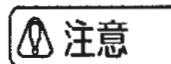
- ① 燃料タンクにきれいな燃料（無鉛ガソリン）を入れてください。
- ② エンジンのオイルゲージでオイル量が適正かどうか確認し、不足している場合は補充してください。
- ③ ポンプのオイルゲージでオイル量が適正かどうか確認し、不足している場合は補充してください。
- ④ 吸水ホースの先端に、吸水フィルター（§ 1 - ⑬）を取り付けてください。その後、水の入った水槽の中にホースと吸水フィルター部を入れてください。
- ⑤ 吸水ホース・余水ホースをポンプ本体に接続してください。

その時本体の吸水ホース取り付け口（§ 1 - ⑦）のフィルター部分にゴミが付着していないかを確認してください。

ホース接続時、特に吸水ホースの本体部への締付け不良は、ポンプのエア噛みを引き起こし、異常振動、圧力低下の原因となりますのでしっかりと接続願います。

吸水ホース・余水ホースが別々になっている場合は、ビニールテープや紐などで吸水ホースと余水ホースを結束しておくとう便利です。

- ⑥ 高圧ホースを、ポンプ本体に接続してください。ガン、ランスも構成図を参考に接続願います。



3. エンジン始動

- ① 燃料コックを開き、リコイルスターターを数回軽く引き、燃料を循環させます。

※ 工場出荷時には、燃料を抜いた状態にあります。初めて使用する際は燃料が系路内に入っていないため、リコイルを5～10回程かるく引いて燃料をキャブレター内に循環させてください。

- ② エンジン側面にある始動スイッチを“ON”に合わせてください。
- ③ スロットルを半分ほど開き、かつチョークレバーを矢印方向にいっぱいまで引いてください。
- ④ リコイルスターターのかみ合いをあわせて一気に引っ張ります。エンジンが繁りましたら、チョークレバーを素早くいっぱいまで戻してください。

※ チョークをいっぱいまで戻さないとシリンダー内で不完全燃焼を起こすためエンジンが止まり、再始動も困難になります。

4. 運転開始

- ① エンジンを始動後、低速で1～2分程、暖機運転をしてください。

この時、自動エア抜き弁により、30秒程でエア抜きが完了します。吸水しているか、そして、余水ホースから水が出ているかどうかを必ず確認して下さい。

- ② その後スロットルレバーを高回転側に切り換え、ガン、ランスを手でしっかり保持したうえで、ガンのトリガを引いて高圧水を噴射させ作業を開始してください。

※ もし高圧水が噴射されないときは、“§8 トラブルシューティング”を参照して点検願います。

※ ガンを開き、高圧水を噴射した状態で、圧力計で圧力をチェックして規定圧力になっているか確認してください。尚、圧力は噴射時のみ表示されます。圧力が規定値より高い場合は、規定値以下になるようアンローダー（§1-③）にて調節してください。

※ 作業を中断する時は、必ずガンの安全ロックをしてください。



★ エンジン取り扱いにつきましては、別冊“エンジン取扱説明書”をよくお読みください。

5. 運転終了

- ① 作業を終えガンを閉じた後、エンジンをかけた状態で吸水ホースを水槽から引き上げて、吸水ホース内の水を排出してください。この時、1分以上の空運転は避けてください。パッキンの異常摩耗につながる原因となります。
- ② スロットルを低速運転側へいっぱいに戻し、数秒後にエンジン側面のスイッチを切ります。すぐに止めたり、高速回転のままでスイッチを切ると、アフターバーン（逆火）を起こすことがあります。
- ③ エンジン停止後は必ず、ガンの引き金を引いてホース内の残圧を逃がしてください。このとき残圧がホース内に残ったままにしておくと、不用意にガンの引き金を引いた際、残圧による被害を起こしかねませんので十分ご注意ください。
- ④ 燃料タンク下側の燃料コックを閉じてください。
※ 燃料コックを閉じないで運搬しますと、振動でキャブレター部から燃料漏れを起こすことがあります。
- ⑤ 必要に応じてホース等を取り外して作業を終了してください。

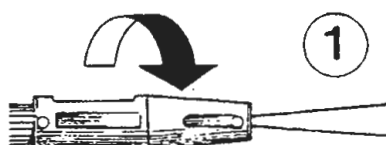


6. バリアブルノズルの使い方

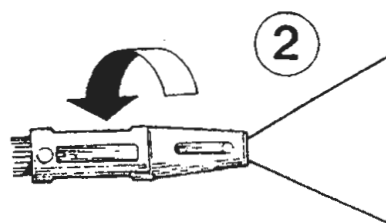
ノズルの先端を回転させることにより、噴射パターンを変化させることが可能です。パターンの変更は、必ずガンの引き金を放した状態で行ってください。噴射中に行いますと、高圧噴射水が指や手などに当たり、大怪我をする恐れがあります。



- ① 時計（右）回し：直噴になります。強力な噴射圧力が一点に集中します。



- ② 反時計（左）回し：広角（最大80°）になります。広範囲を能率良く洗浄できます。

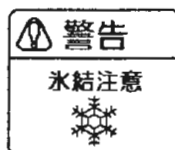


§ 6 使用後の注意点

1. 寒冷時の凍結防止

寒冷期にポンプ内に水を入れたままにしておくと、凍結によりポンプの破損につながります。使用後に、不凍液を機械内部に循環させておくトラブルの発生を防ぐことが出来ます。(不凍液量：約6 L)

万一、凍結の可能性がある場合は機械を暖かい場所に置いたり、ポンプヘッドにお湯を徐々にかけるなどして解凍してください。解凍するまでは絶対に運転しないでください。凍結したまま運転しますと故障に直結する原因となるばかりでなく、異常圧力の発生等による事故の可能性を生じるため、大変危険ですので絶対にしないでください。



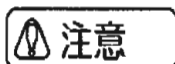
2. 不凍液の循環方法

適度に希釈された不凍液を入れた容器の中に吸水ホースを入れた状態で機械を動作させてください。不凍液がポンプ内に吸入されます。ポンプ内に（必要に応じてホース内も）液が行き渡ったら機械を止めてください。

3. 長期間使用しない場合

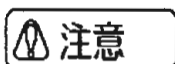
1ヶ月以上機械を使用する予定がない場合は、エンジンの燃料コックを閉じて運転をし、キャブレター内のガソリンを使いきってください。また、燃料タンク内の燃料も抜き取っておいてください。

※ 燃料が入ったまま放置しますとキャブレターが詰まり、次回始動時にエンジンがかからない、かかってもすぐに停まってしまう等のトラブル発生の原因となります。



4. 劣化ガソリンの使用禁止

機械を使用せずに3ヶ月以上放置した時は、ガソリンが変質している可能性がありますので、使用の前に必ず新しいガソリンに入れ替えてください。劣化、変質したガソリンを使用しますと本機の故障につながります。



§ 7 保守点検

1. アンローダーの調整について（重要）

アンローダーの圧力調整ネジで、圧力を上げる方向に変更する場合は、調整ナットの締めすぎは、装置の破損につながりますので十分注意してください。



※調整方法

ガンを噴射状態にして、圧力を確認しながら徐々に締めていき、製品の所定圧力になったところで締めるのをやめストッパーナットを固定し、それ以上圧力が上がらないようにしてください。

必要以上に締め上げても、噴射圧力は上がりません。逆に、ガン噴射をストップしたときにポンプ内部が異常に高圧となり装置を破損させることとなりますので十分に注意してください。

2. オイル交換

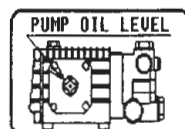
■ポンプオイル

【交換時期】・・・初回：50 時間運転時 以後：100 時間運転毎

【推奨オイル】・・・日石フェアコール A68, 又は同等品

※ オイルはポンプオイルゲージの中心位置に合わせてください。

※ 当社にて、適合オイルの 1 L 缶と 4 L 缶を用意しておりますのでお申し付けください。

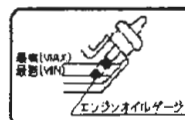


■エンジンオイル

【交換時期】・・・初回：20 時間運転時 以後：100 時間運転毎

【推奨オイル】・・・自動車用エンジンオイル 10W-30 SE クラス以上

※オイルは注入口の口元までいれてください。（約 0.6 L）



3. ポンプ部 Vパッキン、バルブ交換

長時間使用しますとプランジャー部のパッキンが摩耗し、正常な圧力が出なくなったり、ポンプ下部から水漏れすることがあります。この場合はプランジャー部の Vパッキンをセットで交換してください。

またバルブが摩耗しますと噴射水の圧力が乱れますので、その場合はバルブをセットで交換してください。

§ 8 トラブルシューティング

1. 現象：エンジンは正常に回転し、普通に噴射しているが、圧力が所定値まで上がらない。

◎高圧噴射の状態にして、余水ホースからの水量を調べてください。

A. 余水が多い。

- ① アンローダーの圧力調整不良

→運転の状態にして、圧力調整ネジを回し圧力を調整してください。

- ② アンローダーのバルブ・シートの摩耗

→部品交換。

B. 余水がほとんどない。

- ① 吸水系統からのエア吸い込みによる不良（ポンプに水が十分供給されない。）

→吸水ホースの接続を確認し、締め直してください。

→接続部のパッキンの交換。

- ② フィルターの目詰まり

→吸水ホースを外し、本体側ジョイント内部に付いている小フィルターのゴミを除去してください。

→吸水ホース先端のフィルターにゴミが付着していないか確認してください。

- ③ ノズル口径の異常

→摩耗等によりノズル口径が大きくなっている可能性があります。部品交換してください。

→純正品以外の口径の大きいノズルが付いていないか確認してください。

- ④ ポンプ内部の不良

→ポンプから高圧ホースを外し、ポンプを回転させた状態で、ポンプの吸水口に水道ホースを押しつけ強制給水をさせます。

→上記で改善されない場合はポンプヘッドのバルブ部の六角を外し、バルブにゴミが付着していないか調べ、ポンプ内に残っているゴミ分を水道水で洗い流してください。

→プランジャー部のパッキン、バルブ摩耗のため部品交換してください。

2. 現象：エンジンは正常に回転しているが、ガンの圧力がほとんど上がらない。

◎吸水しているか？高圧噴射の状態にして、余水ホースから水が勢いよく出ているかどうか調べてください。

A. 吸水している。勢いよく出ている。

- ① ノズルの目詰まり

→ノズルを外して、エアブロー又は細い針金などでゴミを除去してください。ノズル装着の前に機械を動かして捨吹きを行ってください。

② アンローダーのゴミ侵入による不良

→アンローダーのバルブシート周辺にゴミが付着している可能性がありますので、巻末の製品分解図（MV540）を見ながら分解洗浄してください。

③ ポンプ部の自動エア抜き弁の不調

→部品交換。

B. 吸水していない。勢いよく出ていない。

① 吸水系統からのエア吸い込みによる不良（ポンプに水が十分供給されない。）

→吸水ホースの接続を確認し、締め直してください。

→接続部のパッキンの交換。

② 吸水口フィルターの目詰まり

→吸水ホースを外し、本体側ジョイント内部に付いている小フィルターのゴミを除去してください。

③ ポンプ内部の不良、バルブの固着

→ポンプから高圧ホースを外し、ポンプを回転させた状態で、ポンプの吸水口に水道ホースを押しつけ強制給水させます。

→上記で改善されない場合はポンプヘッドのバルブ部の六角を外し、バルブにゴミが付着していないか調べ、ポンプ内に残っているゴミ分を水道水で洗い流してください。

→プランジャー部のパッキン、バルブが摩耗している場合は交換してください。

→長時間の空運転でプランジャーが割れることがありますので確認してください。破損している場合は部品交換をしてください。

3. 現象：圧力が変動する。

① 吸水フィルターのゴミ詰まり

→目視にてチェック。フィルターのゴミを除去してください。

② 吸水口フィルターのゴミ詰まり

→吸水ホースを外し、本体側ジョイント内部に付いている小フィルターにゴミが付着していないか確認する。フィルターのゴミを除去してください。

③ 吸水ホースの締め付け不良

→エアかみを起こしている可能性があります。本体とホースをしっかりと接続してください。

④ ポンプの弁のゴミ引っかかり

→ポンプから高圧ホースを外し、ポンプを回転させた状態でポンプの吸入口に水道ホースを押し付け強制給水させます。

→上記で改善されない場合はポンプヘッドのバルブ部の六角を外し、バルブにゴミが付着していないかを調べ、ポンプ内に残っているゴミ分を水道水で洗い流してください。

4. 現象：初期使用時からポンプに水が入ってこない。

① 吸水ホースがしっかり締まっていない

吸水ホースがポンプ本体にしっかり接続されてないと、シート面から空気を吸ってしまつて水が入ってこなくなることがあります。

またホース側のネジ部内のパッキンが傷んでいたり無くなっていたりして空気を吸ってしまうこともあります。パッキンを新しいものと交換してください。

② ポンプ内の吸入弁の固着

ポンプ内の吸入弁のシート面は、新品時は鏡面状態になっているため、シート面の固着により水を吸い上げない場合があります。この場合、ポンプを回した状態で、ポンプの吸水口に水道ホースを当てて勢いよく水を噴射して呼び水をしてやるとシート面が離れ、吸水するようになります。

5. 現象：ポンプからオイルが漏れる。

① 締め付け不良

→ボルト等がしっかりと締まっているか確認する。緩んでいる箇所を締め付けてください。

② Oリング、パッキンの損傷

→部品交換。

③ オイル注入量の過多

→オイル量が規定量より多いとオイルが噴きだすことがあります。

ゲージでオイル量を確認し、多すぎる場合はドレン口からオイルを抜いて規定の量（ゲージ中心位置）に調整してください。

6. 現象：ポンプから水が漏れる。

① 締め付け不良

→ジョイント等がしっかりと締まっているか確認して下さい。

② Oリングの損傷

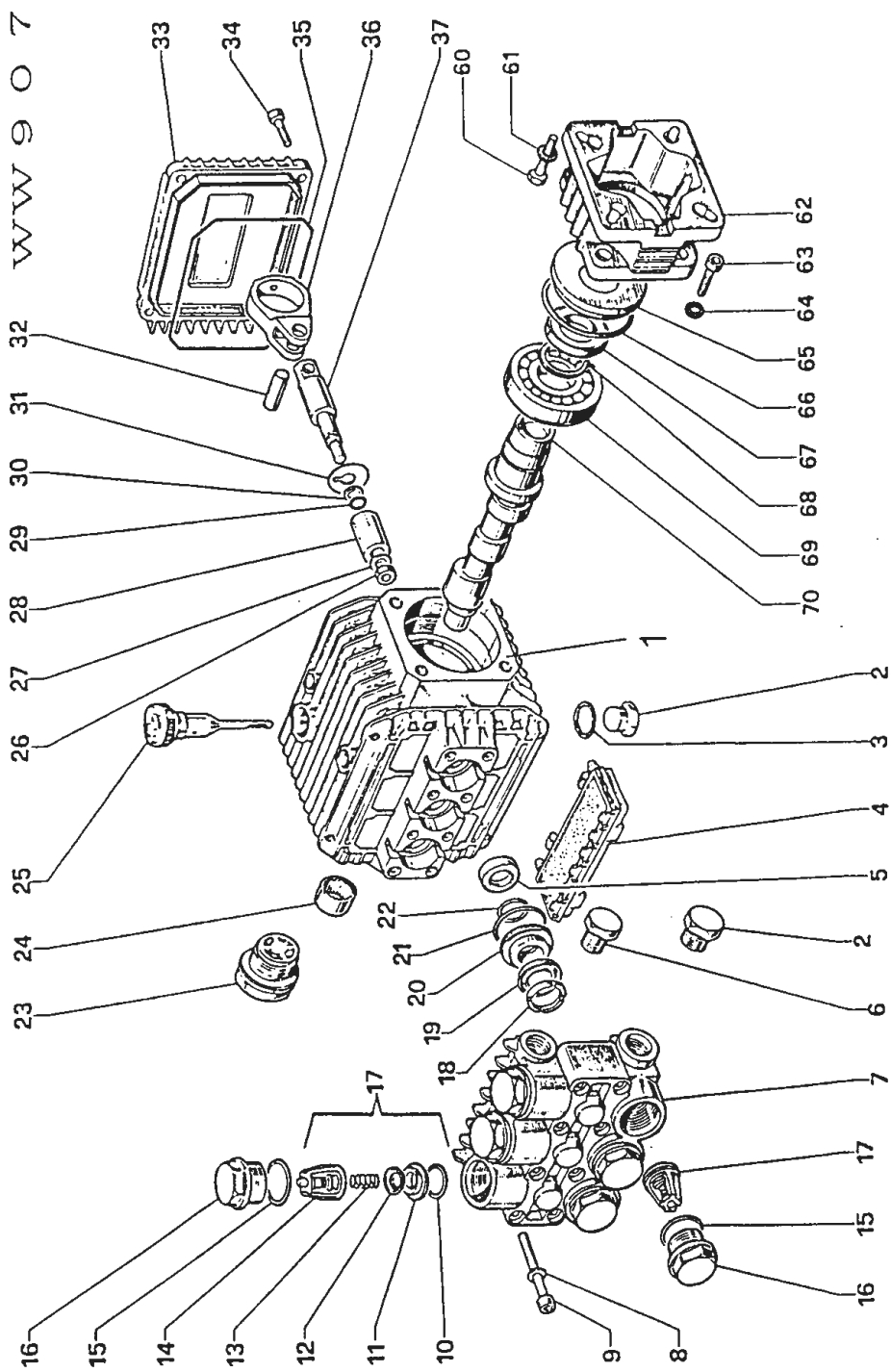
→部品交換

③ パッキン類の摩耗、損傷。

→シリンダー、シリンダーパッキンの摩耗、損傷により水漏れしている場合は、部品交換して下さい。

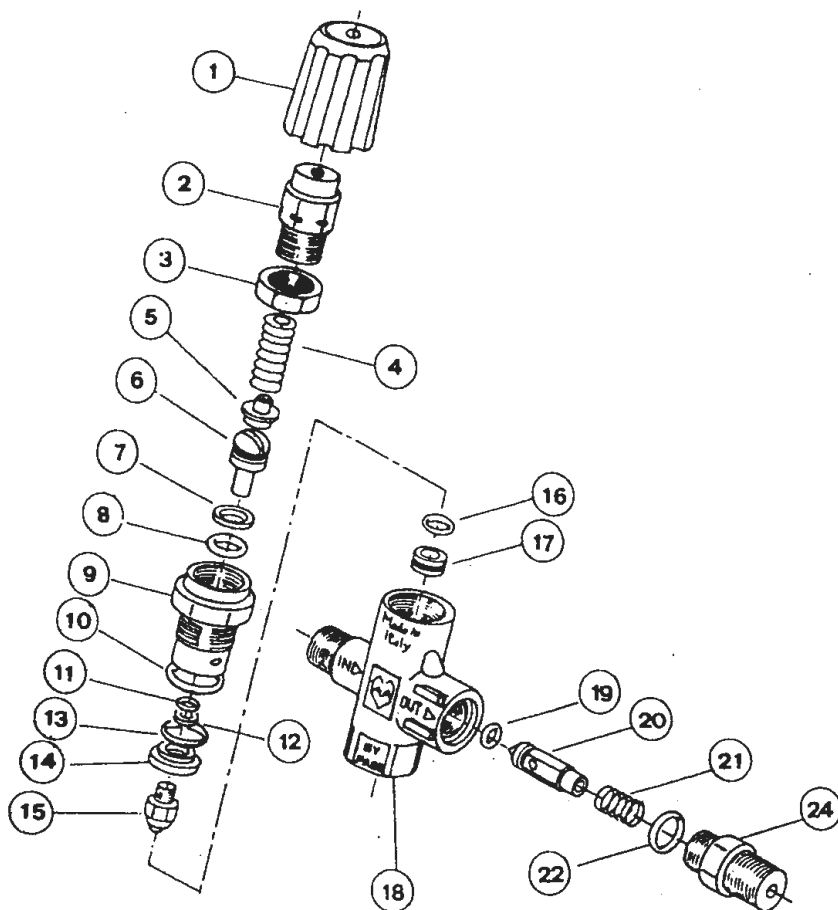
→高圧、低圧シールの摩耗により水漏れが起こる場合があります。分解点検し、摩耗した部品を交換してください。（空運転すると、ポンプ内部のパッキン等が早期に損傷してしまいます。）

WW 9 0 7



高圧洗浄ポンプ WW907 部品表

部番	コード	品名	数		
	KIT96	シールキット18,19,20,21,22			
1	51.0106.22	クランク室	1		
2	98.2100.00	オイルドレンプラグ G3/8	2		
3	90.3833.00	OR 13.95-2.62	1		
4	51.2091.02		1		
5	90.1565.00	オイルシール 15-24-5	3		
6	98.2041.00	埋栓 G1/4-9	1		
7	51.1201.22	マニフォールド	1		
8	96.6938.00	座金 6.4	12		
9	99.1943.00	ボルト M6-40	8		
10	90.3841.00	OR 17.13-2.62	6		
11	36.2003.66		6		
12	36.2001.76		6		
13	94.7376.00		6		
14	36.2002.51		6		
15	90.3847.00	OR 20.24-2.62	6		W956
16	98.2218.00	バルブプラグ M24-1.5	6		
17	36.7032.01	バルブセット	6		GONG
18	51.1000.51	ヘッドリング	3		GONG
19	90.2620.00	高圧パッキン 15	3		GONG
20	51.0800.70	パッキン受金	3		GONG
21	90.3604.00	OR 25.12-1.78	3		GONG
22	90.3835.00	OR 15.08-2.62	3		GONG
23	97.5968.00		1		
24	91.8014.00		1		
25	98.2103.00	オイルスティック	1		W956
26	92.2216.00		3		
27	96.7008.00		3		
28	51.0400.09	セラミックピストン	3		X161
29	90.3572.00	OR 5.28-1.78	3		
30	90.5022.00		3		
31	96.7070.00		3		
32	97.7310.00	クランクピン 8-24.5	3		
33	51.1600.22	クランクケースカバー	1		
34	99.1867.00	ボルト M6-18 UNI5931	4		
35	90.3917.00	OR 88.57-2.62	1		TH3500
36	51.0300.22	コネクティングロッド	3		
37	51.0500.56	ピストンロッド	3		
60	99.2730.00		4		
61	96.7014.00		4		
62	10.0346.22	エンジン取付フランジ	1		
63	99.1867.00	ボルト M6-18 UNI5931	4		
64	96.6938.00	座金 6.4	4		
65	50.2115.51		1		
66	90.4097.00	OR 55.56-3.53	1		
67	90.1644.00	オイルシール 30-42-7	1		
68	90.0667.00		1		
69	91.8373.00	ベアリング 6206	1		
70	51.0211.35	ホローシャフト	1		



部品表：アンローダー MV540

部番	コード	品名	数量			
1	0119740010	ノブ	1			
2	0106710480	ブッシング A	1			
3	0147710090	スレッドリング	1			
4	0107720290	調圧スプリング	1			
5	0131730050	プレート	1			
6	0114720050	ピストン	1			
7	0117740180	ワッシャー A	○ 1			
8	0110750000	OR (2031)	○ 1			
9	0106710180	ニップル	1			
10	0110750090	OR (2068)	○ 1			
11	0110750230	OR (105)	○ 1			
12	0117740080	ワッシャー B	○ 1			
13	0110750250	OR (2056)	○ 1			
14	0139710010	スペーサー	1			
15	0116000000	バルブ (11/32)	1			
16	0110750010	OR (108)	● 1			
17	0106720000	ブッシング B	● 1			
18	0109710800	ボディ	1			
19	0110750240	OR (4.3*2.4)	○ 1			
20	0114710170	背圧弁	○ 1			
21	0107720370	背圧スプリング	○ 1			
22	0110750080	OR (2062)	○ 1			
23	0115710170	アウトレットニップル	1			
	0215101000	リペアキット (○)	1			
	0215101010	エクストラリペアキット (●)	1			

部品ご入用、故障の場合、その他取扱い上ご不明の点があった場合には、ご遠慮なくお買上げの販売店、またはリョービ販売営業所にお問い合わせください。

※改良のため、お断りなく製品仕様が変更ことがあります。

RYOBI

発売元

リョービ販売株式会社

本 社 〒468-8512

名古屋市天白区久方1-145-1

TEL.(052)807-1600 FAX.(052)807-1606